

「米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に関する連絡協議会」

での要請事項及び回答

●北海道、千歳市、苫小牧市の3者で構成する

「米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に関する連絡協議会」としての要請

- 1 土曜日・日曜日及び早朝・深夜の訓練を実施しないことなど、これまでの両市との協議経過を踏まえ、協定の内容を確実に遵守すること。

また、米軍帰還に際しても、土曜日・日曜日及び早朝・深夜に飛行することのないよう配慮すること。

- 2 自衛隊が通常使用している訓練空域や飛行経路、飛行方法によること。

《回答》

①及び②については包括的に回答させていただきます。

千歳基地における訓練の実施に当たり、土日及び早朝・深夜における訓練はもとより、訓練空域、飛行経路及び飛行方法などについても、航空自衛隊と同様の態様となります。

また、協定についても平成19年1月に、千歳市及び苫小牧市と締結した「米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に関する協定書」の内容を遵守するとともに、これまでの関係自治体との協議・確認事項を踏まえ、訓練移転を実施してまいります。

また、米軍帰還の際の土日及び早朝・深夜の飛行につきましても、地元には配慮するよう、米側に求めてまいります。

- 3 米軍人の外出時等の対応など本道滞在中における規律の維持に万全の対応を行うこと。

《回答》

米軍人の本道滞在中における北海道防衛局の対応については、前回と同様、必要に応じサポートを行い、トラブルの未然防止に努めてまいります。

規律の維持についても、防衛省として平素から米側に対して、隊員の教育や綱紀粛正の徹底を図る等、様々なレベルから申し入れを行っており、改めて当局からも米軍に申し入れを行ってまいります。

- 4 訓練期間中は、貴局において騒音測定を実施するとともに、できる限り早期に結果を公表すること。

《回答》

訓練期間中における騒音測定については、これまでと同様に実施し、騒音測定結果についても、速やかに公表したいと考えています。

5 訓練の安全管理及び参加する戦闘機の整備・点検など安全確保に万全を期すこと。

《回答》

航空機の運用に当たっては、安全の確保が大前提であり、航空機による事故は地域の方々に不安を与える、あってはならないものであると認識しています。

当局としては、訓練部隊に対し、航空機の点検・整備の確実な実施や安全管理に万全を期すよう求めてまいります。

6 説明会や米軍ブリーフィング等の開催など、訓練に関する情報を住民、自治体、報道機関に詳細に提供すること。

《回答》

当局としては、地元の皆様への情報提供については、大変重要と認識していることから、米軍によるブリーフィングの開催を求めているところです。

また、当局としても説明会の開催を予定しているところです。

関係自治体等への情報提供については、引き続きお知らせできる情報が得られ次第、迅速かつ確実な情報提供に努めてまいります。

7 訓練終了後の「検証」を必ず行うこと。

《回答》

訓練終了後における訓練の状況及び騒音測定結果に係る「検証」については、これまでと同様、可能な限り対応してまいりたいと考えています。

8 これまで実施された訓練移転によって、沖縄の負担がどの程度軽減されたのか、期限を決めて目に見える形で検証すること。

《回答》

米軍再編に係る訓練移転は、嘉手納飛行場における航空機による訓練だけでなく、三沢及び岩国飛行場の航空機が嘉手納飛行場に飛来して実施している訓練も移転の対象としており、嘉手納飛行場における更なる騒音軽減に資するものです。

国内・国外の訓練移転を積み重ねることにより、嘉手納飛行場の周辺住民の方々のご負担を軽減できるものと考えています。

他方、嘉手納飛行場の運用の全てを把握しているわけではなく、航空機訓練移転による負担軽減の効果を定量的にお示しすることは困難であることを御理解願います。

●苦小牧市の個別要請

1 米軍外来機における飛来訓練等の抑制など、沖縄県の方々が負担軽減を実感できるように努めること。

《回答》

日米両国は、航空機の訓練移転を行う期間中、沖縄の飛行場における米軍の訓練活動の影響について配慮することとしており、防衛省としても、訓練移転の都度、米側に対し配慮要請を行っています。

その上で、嘉手納飛行場に所属する航空機の訓練移転について、これまでに、計52回実施したところであり、直近の訓練移転では、本年6月に実施され、F-22戦闘機10機等が、約2週間沖縄を離れることになりました。

訓練移転により、沖縄で行われる訓練の一部が本土等に移転されたことで、沖縄における駐留及び訓練時間が軽減されることから、一定程度の負担が軽減されていると考えています。

防衛省としては、嘉手納飛行場の騒音実態の把握に継続的に努めており、実態を踏まえて、米軍に対し、騒音規制措置の遵守や、地元の重要な行事に配慮するよう申入れを行い、さらに、住宅防音工事の助成など、地域社会との調和に係る各種施策を通じて、周辺住民の方々のご負担を可能な限り軽減できるよう努めるなどの措置を講じているところです。

いずれにしましても、今後とも米側に対し、嘉手納飛行場における騒音の軽減が図られるよう一層の協力を求めるとともに、今後も訓練移転を着実に積み重ねるなど、全力を挙げて取り組んでまいります。

2 千歳基地では、航空機からの部品落下が繰り返し発生していることから、米軍機を含む機体の整備、点検の強化を図るとともに、事故が発生した場合は、原因究明及び再発防止策について速やかに情報提供を行うこと。

《回答》

(自衛隊について)

航空機による事故等により、基地周辺住民の方々に不安を与えることがあってはならないのは当然です。

防衛省・自衛隊としては、機体の整備について、飛行前後の点検のみならず、千歳基地、補給処等において定期的な整備の点検を行い、飛行安全及び品質管理の上で重要な構成品については、定期的に交換を行う等、機体の安全性を確保する上で必要な措置を講じています。

さらに、隊員の教育においては、パイロットの安全教育に万全を期すことはもとより、整備員についても、安全教育や飛行前後の機体の整備点検等を通じ、安全確保に関する指導を行っています。

防衛省・自衛隊としましては、地域に与える影響を最小限に留めるよう、引き続き自衛隊機の安全管理の徹底を行い、部品紛失・事故等の防止に引き続き万全を期してまいり所存です。

また、万一、事故等が発生した場合には、これまでと同様、地元自治体等への情報提供について、適切に対応してまいります。

(米軍について)

米軍機の飛行に際しては、安全の確保が大前提であり、引き続き米側に対し、安全面に最大限の配慮を払うとともに、地域住民に与える影響を最小限にとどめるよう求めている考えです。

なお、千歳基地での訓練移転において米軍戦闘機や輸送機の事故が発生した場合には、その原因及び今後の対応について情報が得られ次第、苫小牧市を含む関係自治体に迅速かつ確実に情報提供を行うなど、適切に対応してまいります。